

道仏北遺跡発掘出土品展Ⅲ

平成 26 年 7 月 19 日 (土) ~ 10 月 26 日 (日)

宮代町郷土資料館

開催にあたって

道仏北遺跡は県道春日部久喜線建設や道仏土地区画整理事業に伴い平成 15 ～ 25 年度にかけて 8 回に渡り発掘調査が実施され、多くの成果をあげることができました。特に宮代町の他の遺跡では余り出土しない縄文時代前期初頭から中期初頭（約 6,000 年前～ 4,700 年前）にかけての集落跡が検出されたことは特筆できます。また、前期終末（約 4,900 年前）から中期初頭（約 4,700 年前）の住居跡の検出例は宮代町だけでなく埼玉葛地区でも非常に珍しいと言えます。前期終末では杉戸町や旧庄和町で僅かに検出されていますが、中期初頭は全く検出されていません。

今回の展示会は道仏北遺跡発掘出土品展としては 3 度目となります。初回の展示会では主に平成 18 ～ 19 年度の調査地点、前回の展示会では平成 20 年度の調査地点を対象としました。今回の展示会では平成 20 年度の調査地点の発掘調査報告書が刊行されたため、宮代町教育委員会が行った全ての道仏北遺跡での発掘調査から出土した土器等を時代別に展示します。是非ご覧ください。



航空写真（南側から）平成 18 ～ 19 年度調査地点（奥はアンダーパスの工事）

凡例

- 1 本書は平成 26 年 7 月 19 日（土）から 10 月 26 日（日）にかけて開催される企画展「道仏北遺跡発掘出土品展Ⅲ」の展示図録です。
- 2 本書並びに展示した写真は当館学芸員河井伸一と元当館館長青木秀雄が撮影いたしました。
- 3 本展の企画及び図録の編集は河井が担当しました。なお、展示については資料館職員等が協力して行いました。

道仏北遺跡の位置

道仏北遺跡は宮代町の中央やや南側に位置し、標高 7.0 m の台地上に立地します。遺跡の東 700 メートルには現在大落古利根川が流れており、この河川の氾濫により、遺跡の所在する台地上には自然堤防の粘土質の土が覆っています。

平成 20 年度の調査地点は幅約 65 メートルを要す舌状台地上にあり、その北側は宮代 2 丁目方向からの台地につながります。西側、東側は低地で南側は谷を挟み、平成 18 ～ 19 年度の調査地点の舌状台地に繋がります。

約 6,000 ～ 5,000 年前の縄文時代前期には道仏北遺跡の周囲には海が広がっていました。奥東京湾です。今より海面が 2 ～ 3 メートル高かったと推定され、道仏北遺跡の集落とは高低差 4 メートルの急な崖のような状態でした。



2つある道仏北遺跡

道仏北遺跡は谷の存在により、2つの遺跡に分れます。南側の遺跡は平成15、18～19、21、22、25年度に発掘調査が行われた場所です。北側の遺跡は平成17年度の宮代通り線、平成20年度のスーパーマーケット（カスミ）建設により発掘調査が行われた場所になります。現在、南北の遺跡とも道仏北遺跡と呼んでいますが、縄文時代は隣接する別の縄文ムラ（集落）でした。

道仏北遺跡の発掘調査

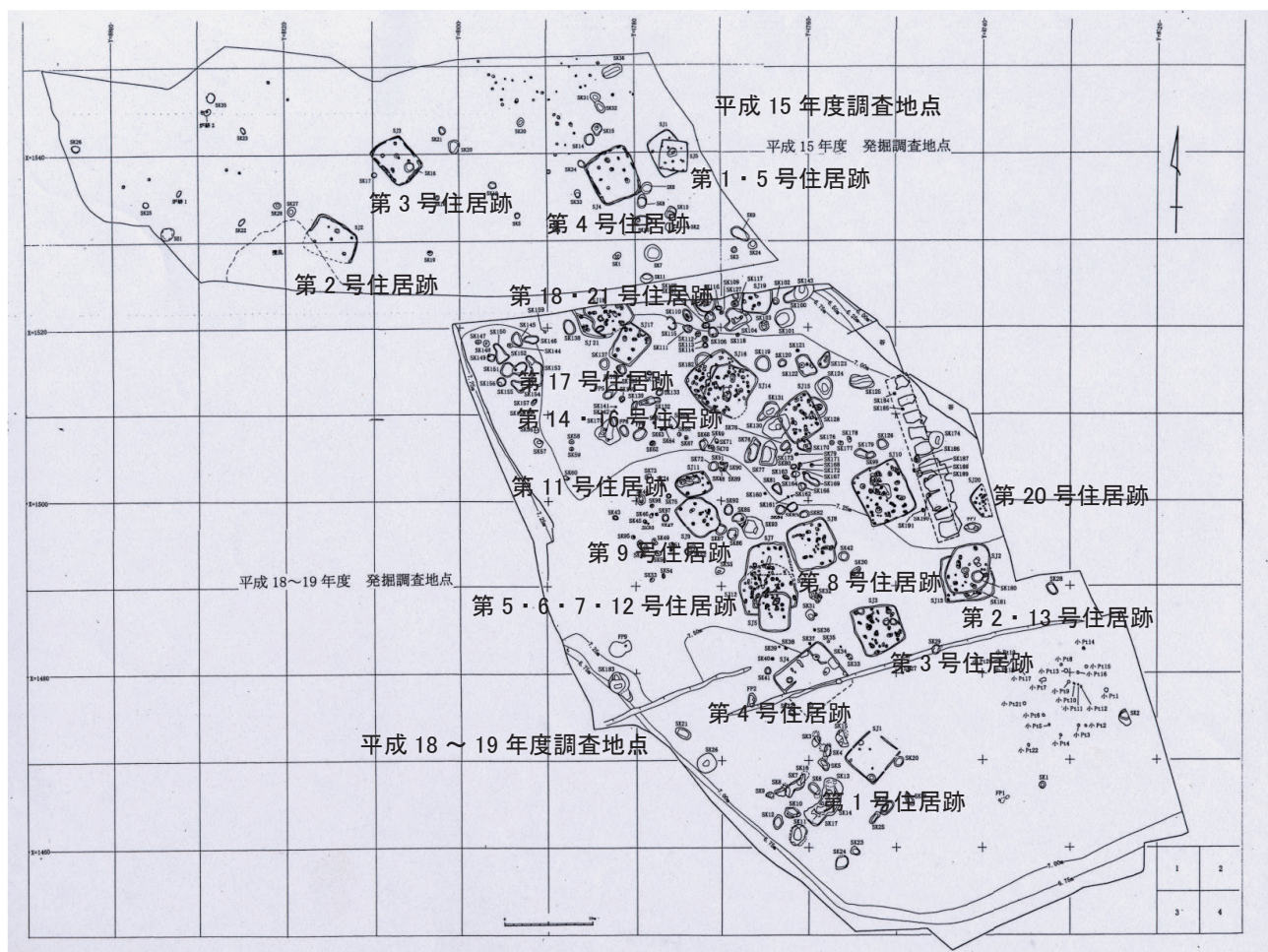
道仏北遺跡の発掘調査は、平成15年度の（財）埼玉県埋蔵文化財事業団による県道春日部久喜線に伴う調査が最初です。その後、道仏土地区画整理事業に伴い、平成17年度（宮代通り線）、平成18～19年度（宅地造成）、平成20年度（カスミ）、平成21年度（町道、看板撤去）、平成22年度（個人住宅）、平成25年度（町道）の8回延べ20か月に渡り発掘調査が実施されました。

発掘調査の結果、平成15年度には住居跡5軒、土坑（当時の人々が掘った穴。貯蔵穴や落とし穴など）35基、平成17年度には土坑が2基、平成18～19年度には住居跡21軒、土坑179基、炉穴（屋外の調理場）9基、平成20年度には住居跡18軒、土坑167基、炉穴13基、平成21年には土坑が23基、平成22年度には土坑が1基、平成25年度には土坑が1基発掘されました。特に縄文時代早期後半（約7,000年前）から中期初頭（約4,700年前）にかけては、宮代町有数の集落が形成されていたと推定されます。縄文時代中期初頭の集落は埼玉地区では初めての発見です。



網部は調査地点

平成 15・18～19 年度調査区全測図

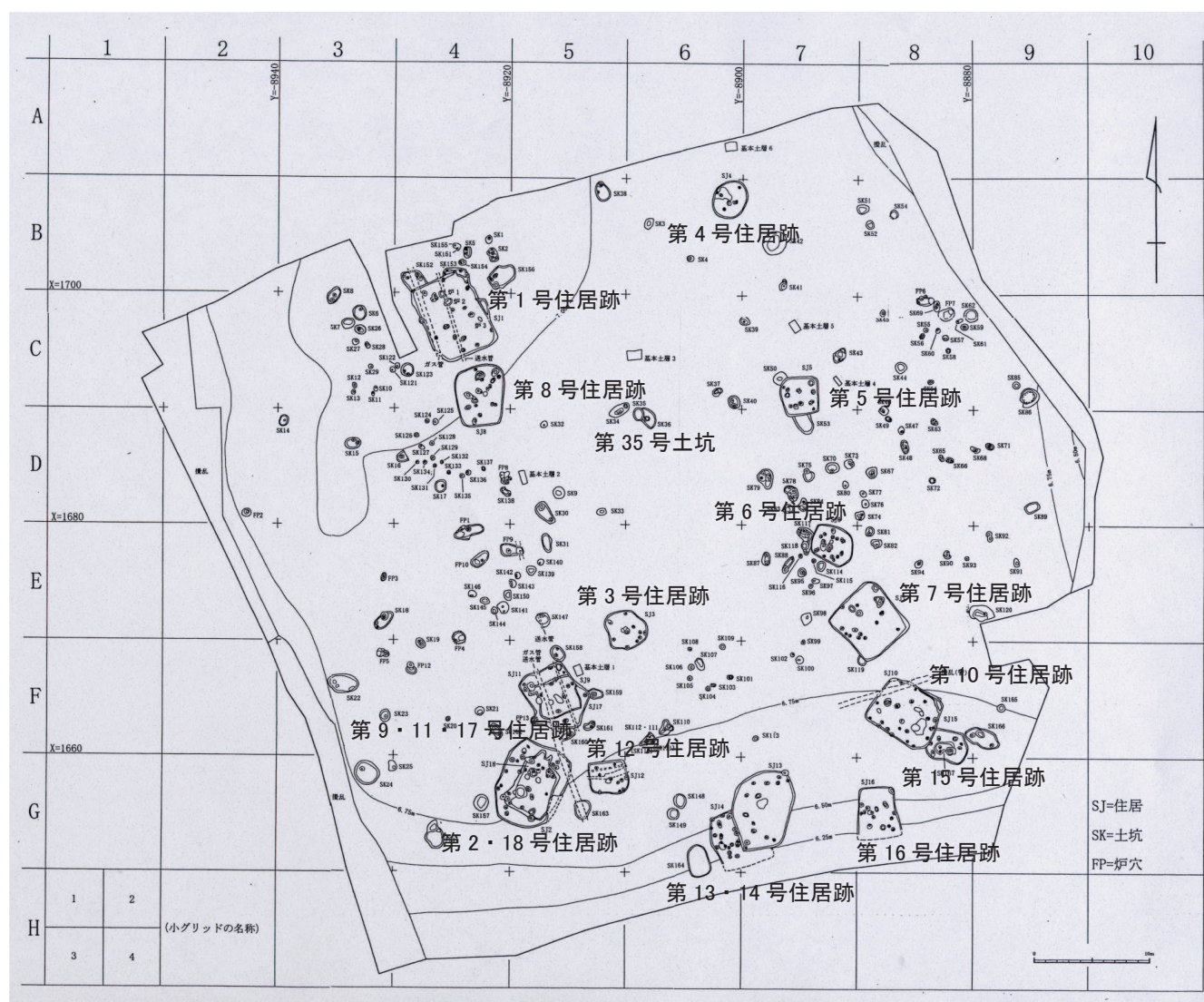


平成 18～19 年度調査地点全景（西側から）

平成 15 年度調査地点は県道春日部久喜線建設に伴い（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団により発掘調査が行われました。縄文時代前期中葉の住居跡が 3 軒、前期後半の住居跡が 2 軒発掘されました。

平成 18～19 年度調査地点は道仏土地区画整理事業に伴い宮代町教育委員会により発掘調査が行われました。縄文時代早期後半の住居跡が 4 軒、前期初頭の住居跡が 5 軒、前期中葉の住居跡が 4 軒、前期後半の住居跡が 6 軒、古墳時代中期の住居跡が 2 軒発掘されました。

平成 20 年度調査区全測図



平成 20 年度調査地点全景（左 南側から、右 北側から）

平成 20 年度調査地点は道仏土地区画整理事業地内スーパーマーケット建設に伴い宮代町教育委員会により発掘調査が行われました。縄文時代早期後半の住居跡が 4 軒、前期前半の住居跡が 1 軒、前期中葉の住居跡が 6 軒、前期後半の住居跡が 3 軒、前期終末の住居跡が 1 軒、中期初頭の住居跡が 3 軒発掘されました。

縄文時代早期後半（約 7,000 年前）

縄文時代早期後半の土器の特徴は表裏に貝殻の表面で調整した痕跡が残る土器です。宮代町では山崎遺跡や金原遺跡（はらっパーク宮代）、地藏院遺跡（ふれ愛センターみやしろ）などで住居跡が発掘されています。道仏北遺跡では北側の遺跡で南側の台地縁辺部に添って4軒の住居跡が検出されました。一方、南側の遺跡では台地中央部に一列に4軒の住居跡が発掘されています。山崎遺跡や地藏院遺跡、金原遺跡では比較的新しい段階（茅山下層式期、約 6,500 年前）が出土していますが、道仏北遺跡は比較的古い段階（野島式期～鵜ヶ島台式期、約 7,000 年前）の住居跡が検出されています。



縄文時代早期後半の集落（約 7,000 年前）



縄文時代早期後半の住居跡 左 平成 18 ～ 19 年度第 17 号住居跡、右 平成 20 年度第 12 号住居跡



縄文時代早期後半の土器 左、右 平成 18 年度第 180 号土坑、中央 平成 18 ～ 19 年度第 7 号住居跡



縄文時代前期初頭の住居跡

左 平成 18 ～ 19 年度第 14 ・ 16 号住居跡、右 同第 20 号住居跡

平成20年度調査地点
平成16年度調査地点
平成17年度調査地点
道仏北遺跡(北側)
平成21年度調査第1地点
平成22年度調査地点
平成15年度調査地点
第19号住居跡
第16号住居跡
第20号住居跡
第6号住居跡
平成18~19年度調査地点
平成21年度調査第2地点

県道春日部・久喜線

図試掘調査地点
■該期の住居跡

0 50m

縄文時代前期初頭の集落（約 6,000 年前）



縄文時代前期初頭の土器 左 平成 18 年度第 6・7・12 号住居跡、中央、右 同第 14・16 号住居跡

縄文時代前期前半（約 5,700 年前）

縄文時代前期前半も奥東京湾がこの地域まで及んでいました。この時期の土器の特徴は綺麗で複雑な縄文です。宮代町でこの時期の住居跡が発掘されたのは初めてです。近隣では蓮田市の関山貝塚が有名です。

道仏北遺跡では北側の遺跡で台地縁辺部から 1 軒の住居跡が発掘されました。

縄文時代前期中葉（約 5,400 ～ 5,200 年前）

縄文時代前期中葉も奥東京湾がこの地域まで及んでいました。道仏北遺跡ではこの時期が最も発達していました。宮代町でこの時期の住居跡が発掘されたのは道仏北遺跡が唯一です。近隣の遺跡では黒浜貝塚が有名です。

縄文時代前期中葉の古い段階（約 5,400 年前、黒浜 1 式期）では北側の遺跡のみで集落が営まれていました。その後、前期中葉の新しい段階（約 5,200 年前、黒浜 3 式期）になると、北側の遺跡に加え、大規模な集落が南側の遺跡でも営まれるようになりました。北側の遺跡では逆 J 字状に住居跡が配置されることから、中央広場を意識した集落であったと推定されます。



縄文時代前期中葉の住居跡

左 平成 18 ～ 19 年度第 5 号住居跡、右 平成 20 年度第 1 号住居跡



縄文時代前期中葉の集落（約 5,400 ～ 5,200 年前）



縄文時代前期中葉の土器 右 平成20年度第10号住居跡、その他 同第1号住居跡

縄文時代前期後半・諸磯a式期

(約 5,000 年前)

この時期も奥東京湾がこの地域まで及んでいました。宮代町では道仏北遺跡の他、地蔵院遺跡（ふれ愛センター）で住居跡が発掘されています。

道仏北遺跡では北側の遺跡からは住居跡どころか、土器も非常に少ない状況でした。一方、南側の遺跡ではランダムに配置された7軒の住居跡が発掘されました。



縄文時代前期後半・諸磯a式期の集落（約 5,000 年前）

縄文時代前期後半・諸磯b式期

(約 4,900 年前)

この時期まで奥東京湾がこの地域に及んでいました。前段階では南側の遺跡のみで住居跡が検出されましたが、この段階では南側の遺跡では1軒、北側の遺跡では3軒の住居跡が等間隔に三角状に配置されています。中央広場を意識していたと推定されます。



縄文時代前期後半・諸磯b式期の集落(約 4,900 年前)



縄文時代前期後半・諸磯 a 式期の住居跡

左上 平成 18 ～ 19 年度第 3 号住居跡、右上 同第 8 号住居跡、左下 同第 10 号住居跡、右下 同第 15 号住居跡



縄文時代前期後半・諸磯 a 式期の土器 左 平成 18 ～ 19 年度第 3 号住居跡、その他 同第 10 号住居跡



縄文時代前期後半・諸磯 b 式期の土器 右 平成 20 年度第 2 ・ 18 号住居跡、その他 同グリッド

縄文時代前期終末（約 4,800 年前）

この頃になると海は引いて行き、道仏北遺跡の周囲は淡水や汽水域であったと推定されます。本段階の住居跡は北側の遺跡で1軒発掘されました。この時期の住居跡は発見されること自体珍しく、近隣では岩槻区の掛貝塚や杉戸町の木津内貝塚で住居跡が発掘されています。



縄文時代前期終末の住居跡 平成 20 年度第 9 号住居跡



縄文時代前期終末の土器
平成 20 年度第 9 号住居跡



縄文時代前期終末の土器 左上 平成 20 年度第 2・18 号住居跡、右上 同第 9 号住居跡 その他 同グリッド

縄文時代中期初頭（約 4,700 年前）

縄文時代中期初頭（五領ヶ台式期）の集落が発掘されました。この時代の集落が発見されることは、全国的に見ても非常に珍しく、埼玉地区では初めての発見です。

集落の構成は、中央広場の真ん中に多量の土器や礫（れき）が発掘された祭祀を行う土坑（第 35 号土坑）がつくられ、周囲に円形の住居跡が 3 軒（第 3・4・6 号住居跡）配置されていました。



縄文時代中期初頭の集落（約 4,800 年前）



縄文時代中期初頭の住居跡 左 平成 20 年度第 3 号住居跡、右 同第 6 号住居跡



縄文時代中期初頭の土器 全て 平成 20 年度第 35 号土坑

第 35 号土坑

第 35 号土坑は調査区中央部の遺構が非常に少ない地点で検出されました。本土坑からは石棒や石斧等の石器類や形の復元できる縄文時代中期初頭の土器が出土しました。石器類や土器を取り上げると多量の石が纏まって出土しました。石には熱を受けた跡なども残り、祭祀に伴う遺構の可能性が高いと推定されます。

この土坑を中心に 3 軒の住居跡が等間隔で配置され、縄文時代中期初頭（約 4,700 年前）の集落が営まれていました。中央広場にあった第 35 号土坑を中心に祭祀が行われていたのでしょうか。なお、中央広場からは多量の土器が出土しています。



平成 20 年度第 35 号土坑遺物出土状況 左 上層、右 下層

縄文時代中期中葉から晩期

(約 4,500 ～ 3,000 年前)

縄文時代中期中葉から後期中葉にかけての住居跡は発掘されませんでした。しかし、土器はある程度出土しています。中期中葉（約 4,500 年前）の土器は非常に派手です。中期後半（約 4,000 年前）の土器は口縁部に模様が施されます。後期前半（約 3,700 年前）と後期中葉（約 3,500 年前）の土器はラッパ形や急須形のもので、後期中葉の土器の裏側には沈線が巡ります。中期後半の土器は春日部市で多く出土しており、後期前半の土器は宮代町で最も多く出土しています。なお、道仏北遺跡では宮代町で唯一、晩期の土器（安行 3d 式土器）が出土しています。



上段 縄文時代中期中葉の土器、中段 中期後半の土器、下段 左 中央左 後期前半の土器 右 晩期の土器

古墳時代中期（約 1,550 年前）

道仏北遺跡では古墳時代中期の住居跡が2軒、南側の遺跡で発掘されました。この他に土坑が2基検出されていますので、小規模の集落が営まれていたと推定されます。対岸の道仏遺跡でも8軒の住居跡が発掘されています。この他に、宮代町で古墳時代中期の住居跡が検出されているのは山崎山遺跡（トクホン工場）のみです。



古墳時代中期の集落（約 1,550 年前）



古墳時代中期の住居跡 左 平成 18 ～ 19 年度第 1 号住居跡、右 同第 4 号住居跡



平成 18 ～ 19 年度第 4 号住居跡遺物出土状況



平成 18 ～ 19 年度第 4 号住居跡出土勾玉



平成 18 ～ 19 年度第 4 号住居跡出土甕、埴、高坏

石器



平成 20 年度 グリッド出土尖頭器



平成 20 年度 グリッド出土搔器、石匙



平成 18 ～ 19 年度 グリッド出土尖頭器、石鏃他



平成 20 年度 グリッド出土石鏃



平成 18 ～ 19 年度 グリッド出土石斧



平成 20 年度 グリッド出土石斧



平成 20 年度 グリッド出土石斧



平成 18 ～ 19 年度 第 10 号住居跡出土垂飾
平成 20 年度 グリッド出土石皿



平成 20 年度 住居跡出土石鏃、石斧他



平成 20 年度 第 35 号土坑出土石皿



平成 20 年度 第 35 号土坑出土石棒、磨石



平成 20 年度 グリッド出土石皿

土製品



左 平成 20 年度 グリッド出土土錘、左 同 土製耳飾

獣面把手



平成 20 年度 グリッド出土獣面把手

縄文時代の時代区分

時代区分	年代	土器の形式	時代区分	年代	土器の形式
早期前半	約 8000 年前	撚糸文式	前期終末	約 4800 年前	諸磯 c 式、浮島Ⅲ式、興津式、十三菩提式
早期中葉	約 7500 年前	田戸下層式	中期初頭	約 4700 年前	五領ヶ台式
早期後半	約 7000 年前	条痕文式	中期中葉	約 4500 年前	勝坂式、阿玉台式
前期初頭	約 6000 年前	花積下層式	中期後半	約 4000 年前	加曾利 E 式
前期前半	約 5700 年前	関山式	後期初頭	約 3900 年前	称名寺式
前期中葉	約 5400 年前	黒浜 1 式	後期前半	約 3700 年前	堀之内式
前期中葉	約 5200 年前	黒浜 3 式	後期中葉	約 3500 年前	加曾利 B 式
前期後半	約 5000 年前	諸磯 a 式	後期後半	約 3200 年前	安行 1 式、安行 2 式
前期後半	約 4900 年前	諸磯 b 式、浮島Ⅱ式	晩期	約 3000 年前	安行 3a 式～安行 3d 式

新聞から見た道仏北遺跡

約 6000 年前の縄文時代前期の
住居跡や土器類が数多く見つかった
道仏北遺跡―宮代町



縄文前期の道仏北
遺跡で現地説明会
15日、宮代町
宮代町教育委員会は十五日午
前十時から正午まで、縄文時代
の集落跡が数多く発掘されてい
る同町の道仏（どうぶつ）北遺

跡の現地説明会を開く。
道仏地区区画整理地内の発掘
調査現場が会場。遺跡の概要説
明、現在までに十四カ所が発見
された約六千年前の縄文時代前
期の住居だった遺構、住居跡か

ら発掘された黒浜式縄文土器な
ど遺物の見学がある。無料。現
地集合。雨天中止。
問い合わせは町郷土資料館
(0480・34・8882)
(菊地正志)

上、左 埼玉新聞
平成 21 年 2 月 12 日号
現地説明会開催案内の記事

右 読売新聞
平成 21 年 2 月 16 日号
現地説明会の記事



宮代の遺跡
170 人見学会
宮代町道仏の「道仏北遺跡」の発掘現場で 15 日、見学会が開かれ、県民ら約 170 人が参加した。
東武伊勢崎線姫宮駅の北
部に広がる道仏北遺跡は、
土地区画整理事業により、
2005 年から発掘が進め

られている。これまで、縄
文時代と古墳時代の集落が
見つかった。
この日は、昨年 9 月から
今月にかけて発掘が行われた
約 4000 平方メートル、約
5000 年～5500 年前の
縄文時代前期などに作られ
た住居 14 軒や屋外で火をた
いた炉穴 11 基の跡などが公
開された。
参加者は、宮代町郷土資
料館の職員から「土の色」で
住居、炉の場所を特定でき
るなどと説明を受けた。同

町学園台の主婦武笠由紀子
さん(40)は「意外に住居が
小さい。何人家族だったの
かしら」と興味深げに遺跡
を見渡していた。
同資料館では 4 月 19 日ま
で、道仏北遺跡など県東部
の約 25 遺跡から出土した土
器や埴輪など約 300 点を
展示している。問い合わせ
は、同資料館(0480・
34・8882)。



現地説明会の風景



現地説明会の風景

発行 宮代町郷土資料館
住所 南埼玉郡宮代町字西原 289
TEL 0480-34-8882
FAX 0480-32-5601
<http://www.town.miyashiro.saitama.jp>